



篠小だより

～学ぶ つながる 篠原の子～

令和5年8月31日

9月号

〒222-0022 横浜市港北区篠原東三丁目27番1号 TEL045-401-9532 fax045-431-9538

【余白】の時間

副校長 三上 顕

夏休みが終わり、いよいよ学校第2ステージがスタートしました。篠原小学校の子どもたち、また、ご家庭の皆様におかれましては、どのような夏休みを過ごされましたでしょうか。

私はこの夏、お盆に3年ぶりに里帰りをしました。コロナ禍で帰省がかなわず、ようやく実家に足を踏み入れることができました。とはいっても私の故郷の家族はみんな他界してしまっていますので、私の実家は3年間空き家となっていました。そこにひとりて帰省したことになります。

実家に到着した当初は窓を開けて掃除をしたり、電子機器が動くかチェックしたりして、忙しく過ごしていました。掃除と確認を一通り終えて居間に座っていると、ほどなく静かな時間に包まれました。長距離の運転と掃除で疲れていたのも、最初はその静けさが心地よく、流れる時間ものんびりした時間に感じられていました。しかし、不思議なことに、だんだんそわそわそわそわしてきます。のんびりした時間が、「何もしなくていいのかな…」と焦りの時間変わっていきました。手持無沙汰になって、さっき掃除したばかりのところをもう一度掃除してみたり…スマホを開いて特に興味があるわけでもないのにだらだらとネットニュースを見てみたり…欲求にない行動をしているうちにどんどん時間が過ぎていきます。そのような自分の姿を自分で見つめ直してみると、「普段の生活の中でこのような何もない余白の時間がなかったなあ」ということに気付きました。いや、もしかしたら本当は余白の時間は普段の生活にあったのかもしれませんが。でもそういった時間を、「ながらスマホ」に費やしたのかもしれない。そのようなことに気づき、実家で一人で過ごしている二日間を、できるだけ「ながらスマホ」をやめて、デジタルデトックスをして過ごしてみようと思いました。

そのような気持ちで外の景色をのぞいてみると、その日はしとしとと雨が降っている日でしたが、その中でもトンボやモンシロチョウが飛んでいます。「田舎の虫はたくましいなあ。羽根が濡れて飛べなくならないのかなあ？」そんな問いが浮かんできました。すぐに調べてみたくなりましたが、デジタルデトックスと決めたので、外敵が少なくて実は花の蜜を探しやすい環境なのかもしれないと自分で勝手に結論付けました。今度は家の中を眺めていると、家族の生前のころの様子が思い出されます。ちょっと切ない気持ちになりながら、「横浜で過ごしているときにはここまで家族のことを鮮明に思い出さなかったなあ。」と考えていました。「どうして今までより鮮明に思い返すんだろう？」と問いを勝手に立てて考えてみました。月並みですが、その理由はやはり、自分の思い出の詰まった場所にいたからなのだと思います。そのように考えてみると、担任を持っていたころ、教室で仕事をしているとよくその日の子どもの残像が浮かんできて、教室で思い返していたことが思い出されました。デジタルでいろいろなところと簡単につながる世の中ですが、人間も自然の生きものだから、五感や心で感じるリアルなものが大切なんだと改めて気付かされました。

静かな二日間の時間でしたが、【ながらスマホ】から離れてみると、最初は暇に感じていやな時間ですが、次第に目に見えるものからどんどん考えや問いが生まれてくるのが分かりました。【自分で問いを立てる力】、【課題発見力】はこれからの時代を生きる必須な能力といわれています。反復系の能力はAIにとって代わり、いよいよ人間らしい創造的な思考力が問われる時代がすでにやってきました。そのキーワードともいえるのが【自ら問いを立てる力】です。私はそのような時代に対応するために、担任をもっていたころ、「子どもたちにいかに問いをもたせるか?」、「問いをいかに経験させるか?」ということばかりを考え、子どもに求めてばかりきました。しかし、実は静かで空虚な時間を過ごし、静かに自分と向き合ってみることも大切なのかもしれません。自由に想像し、考えを広げ、試してみる【余白】が子どもにも必要なのだと思います。

冬休みまでの4か月、子どもたちの生活が、目標に向かって取り組んでいる時間と、少しゆったり自分と向き合っている時間、どちらも有意義な時間となることを切に願っています。学校生活、第2ステージが篠原小学校の子どもたちにとってよりよい時間となりますように。今月もどうぞよろしくお願いいたします。